

■訂正箇所対照表■

6	5	4	3	2	1	番号
6	3	3	2	2	2	ページ
9	目次	目次	目次	目次	目次	訂正箇所 行
◆理解編―論理的な文章、文学的な文章	志賀 直哉 169	村上 春樹 132	夏目 漱石 100	原田 マハ 58	芥川龍之介 28	訂正前
◆理解編―論理的な文章、その他	志賀 直哉 169	村上 春樹 132	夏目 漱石 100	原田 マハ 58	芥川龍之介 28	訂正後

訂正箇所	番号	7
訂正前	ページ	39
訂正後	行	上
		学習の手引き 一 下人の心理の推移に着目して、次の手順に従って本文の展開を把握しよう。 1 下人の行動とそのときの心理を、次の(1)～(3)ごとに整理してみよう。 (1) 羅生門の下で雨やみを待っているときから、楼に上るはしごを見つけるまで。 (2) 楼に上ってから、死骸の髪の毛を抜く老婆を見るまで。 (3) 老婆を取り押さえてから、老婆の語りを聞く前まで。 2 老婆の語りが、下人の心理の転換点となっていることを押さえたうえで、老婆が語る、自分の行為に対する弁明の要点を二点にまとめよう。 3 下人の考えは、最後にどのような結論に「逢着」したのか。老婆の弁明を自らの結論にどのように応用したのかをふまえてながら、説明してみよう。 二 老婆の弁明を自分はどうに受け止めるか。現代の倫理観に照らして、各自の意見を述べ合おう。 活動の手引き 三 下人の「引剥ぎ」(言・13)という行為に対して、下人の行為を否定する立場、または、下人の行為を擁護する立場のいずれかに立って、各自の考えを文章にまとめて発表し合おう。
		活動の手引き 一 下人の心理の推移に着目して、次の手順に従って本文の展開を把握しよう。 1 下人の行動とそのときの心理を、次の(1)～(3)ごとに整理してみよう。 (1) 羅生門の下で雨やみを待っているときから、楼に上るはしごを見つけるまで。 (2) 楼に上ってから、死骸の髪の毛を抜く老婆を見るまで。 (3) 老婆を取り押さえてから、老婆の語りを聞く前まで。 2 老婆の語りが、下人の心理の転換点となっていることを押さえたうえで、老婆が語る、自分の行為に対する弁明の要点を二点にまとめよう。 3 下人の考えは、最後にどのような結論に「逢着」したのか。老婆の弁明を自らの結論にどのように応用したのかをふまえてながら、説明してみよう。 二 老婆の弁明を自分はどうに受け止めるか。現代の倫理観に照らして、各自の意見を述べ合おう。 三 下人の「引剥ぎ」(言・13)という行為に対して、下人の行為を否定する立場、または、下人の行為を擁護する立場のいずれかに立って、各自の考えを文章にまとめて発表し合おう。

訂正箇所	番号	8
訂正前	ページ	69
訂正後	行	上
		学習の手引き この小説は、ル・コルビュジエの『輝く都市』という本と、「私」「父」「正司さん」の三人との関わりが軸となって展開している。 1 三人が『輝く都市』に抱く思いを、本文の記述に基づいてそれぞれ整理してみよう。 2 「正司さん」と「私」の両方が、『輝く都市』を「繰り返し繰り返し読んだ」(三・11、五・3) ことについて、二人の思いにはどのような違いがあるか、説明してみよう。 3 三人がそれぞれ夢をあきらめた理由を、本文を根拠にしながら説明してみよう。 二「私」が、失踪した「父」は砂場にいと直感した理由について、本文の記述や、本文最後のあらすじに書かれていることを根拠にしながら説明してみよう。 活動の手引き 自分にとって思い入れのある本を一冊取り上げ、本文に描かれた三人の『輝く都市』に対する思いを参考にしながら、その本が自分にとってどのような意味を持つのかを、過去の出来事や人とのやりとりなどと関連づけて文章にまとめ、発表し合おう。
		活動の手引き この小説は、ル・コルビュジエの『輝く都市』という本と、「私」「父」「正司さん」の三人との関わりが軸となって展開している。 1 三人が『輝く都市』に抱く思いを、本文の記述に基づいてそれぞれ整理してみよう。 2 「正司さん」と「私」の両方が、『輝く都市』を「繰り返し繰り返し読んだ」(三・11、五・3) ことについて、二人の思いにはどのような違いがあるか、説明してみよう。 3 三人がそれぞれ夢をあきらめた理由を、本文を根拠にしながら説明してみよう。 二「私」が、失踪した「父」は砂場にいと直感した理由について、本文の記述や、本文最後のあらすじに書かれていることを根拠にしながら説明してみよう。 活動の手引き 自分にとって思い入れのある本を一冊取り上げ、本文に描かれた三人の『輝く都市』に対する思いを参考にしながら、その本が自分にとってどのような意味を持つのかを、過去の出来事や人とのやりとりなどと関連づけて文章にまとめ、発表し合おう。

訂正箇所 訂正前 訂正後	番号 ページ 行	9 109 上
	学習の手引き 「第一夜」「第六夜」のそれぞれについて、「自分」の視点から「夢」がどのように理解されているかを、次の手順で把握しよう。 1 「第一夜」について (1) 「自分」が「とうてい死にそうには見えない。」(100・4)、「たしかにこれは死ぬな」(100・5)、「百年はもう来ていたんだな。」(103・14)と判断した根拠を整理しよう。 (2) 「女」と「百合」の描かれ方を対比して、「自分」の中で両者がどのようにつながっているか、本文を根拠に説明してみよう。 2 「第六夜」について (1) 「自分」が彫刻を「誰にでもできる」(107・11)と判断した根拠を、本文をもとに説明してみよう。 (2) 「運慶」と「明治の人間」とを対比的に描くことで、「明治」という時代を「自分」はどのように捉えていると思われるか、各自の考えを述べ合おう。 活動の手引き 「第一夜」と「第六夜」のいずれかがテレビドラマになると想定して、新聞のテレビ欄にある、注目番組を紹介するコラムの記事を書いて発表し合おう。	
	活動の手引き 「第一夜」「第六夜」のそれぞれについて、「自分」の視点から「夢」がどのように理解されているかを、次の手順で把握しよう。 1 「第一夜」について (1) 「自分」が「とうてい死にそうには見えない。」(100・4)、「たしかにこれは死ぬな」(100・5)、「百年はもう来ていたんだな。」(103・14)と判断した根拠を整理しよう。 (2) 「女」と「百合」の描かれ方を対比して、「自分」の中で両者がどのようにつながっているか、本文を根拠に説明してみよう。 2 「第六夜」について (1) 「自分」が彫刻を「誰にでもできる」(107・11)と判断した根拠を、本文をもとに説明してみよう。 (2) 「運慶」と「明治の人間」とを対比的に描くことで、「明治」という時代を「自分」はどのように捉えていると思われるか、各自の考えを述べ合おう。 活動の手引き 「第一夜」と「第六夜」のいずれかがテレビドラマになると想定して、新聞のテレビ欄にある、注目番組を紹介するコラムの記事を書いて発表し合おう。	

番号	10
訂正箇所 ページ	141
行	上
訂正前	学習の手引き 一「僕」が語る体験談の発端となる「中学校の夜警」の仕事と、それ以前の生活とを対比して、両者の相違点とその理由を、時代背景をふまえて説明してみよう。 二「中学校の夜警」の仕事で遭遇した「鏡の中の像」について 1「僕がそうであるべきではない形での僕」(二六・一三)とはどういうことか、説明してみよう。 2「心の底から僕を憎んでいる」(二六・一六)と「僕」が考えたのはなぜか、本文を根拠にしながら説明してみよう。 三体験談を語る前振りとして、「幽霊も出てこないし、超能力もない。」(二三・一七)と「僕」が述べたことをふまえて、「自分自身以上に怖いものがこの世にあるだろうか」(二四・七)と「僕」が主張している理由を、本文を根拠にしながら説明してみよう。 活動の手引き 一「この家に鏡が一枚もない」(二四・九)とあるが、「鏡」を見ることを回避し続けて暮らす「僕」の生き方についてどのような考えるか、自分自身の経験も交えながら、各自の考えをまとめて発表し合おう。
訂正後	活動の手引き 一「僕」が語る体験談の発端となる「中学校の夜警」の仕事と、それ以前の生活とを対比して、両者の相違点とその理由を、時代背景をふまえて説明してみよう。 二「中学校の夜警」の仕事で遭遇した「鏡の中の像」について 1「僕がそうであるべきではない形での僕」(二六・一三)とはどういうことか、説明してみよう。 2「心の底から僕を憎んでいる」(二六・一六)と「僕」が考えたのはなぜか、本文を根拠にしながら説明してみよう。 三体験談を語る前振りとして、「幽霊も出てこないし、超能力もない。」(二三・一七)と「僕」が述べたことをふまえて、「自分自身以上に怖いものがこの世にあるだろうか」(二四・七)と「僕」が主張している理由を、本文を根拠にしながら説明してみよう。 四「この家に鏡が一枚もない」(二四・九)とあるが、「鏡」を見ることを回避し続けて暮らす「僕」の生き方についてどのような考えるか、自分自身の経験も交えながら、各自の考えをまとめて発表し合おう。

番号	11
訂正箇所	179
ページ	上
行	上
訂正前	学習の手引き 一「自分」の死生観に影響を与えた三つの小動物の記述について、次の観点から把握しよう。 1 「蜂」の死について。 (1) 「蜂」の生と死とが、対比的に描かれている部分を整理しよう。 (2) このときに「自分」が抱いた、死に対する考えを、本文を根拠に説明してみよう。 2 「ねずみ」の死について。 (1) 「ねずみ」の行動と、事故に遭った際の「自分」の行動とを比較して述べている部分を整理しよう。 (2) 事故に遭った際の「自分」の考えを、今の「自分」はどのように評価しているか、まとめてみよう。 3 「いもり」の死について、「自分」は「いもり」の死をどのように捉えているか、まとめてみよう。 活動の手引き 一 生と死を「両極ではなかった。」(二六・五)と捉える考え方に對して、各自の意見を文章にまとめて話し合おう。
訂正後	活動の手引き 一「自分」の死生観に影響を与えた三つの小動物の記述について、次の観点から把握しよう。 1 「蜂」の死について。 (1) 「蜂」の生と死とが、対比的に描かれている部分を整理しよう。 (2) このときに「自分」が抱いた、死に対する考えを、本文を根拠に説明してみよう。 2 「ねずみ」の死について。 (1) 「ねずみ」の行動と、事故に遭った際の「自分」の行動とを比較して述べている部分を整理しよう。 (2) 事故に遭った際の「自分」の考えを、今の「自分」はどのように評価しているか、まとめてみよう。 3 「いもり」の死について、「自分」は「いもり」の死をどのように捉えているか、まとめてみよう。 活動の手引き 二 生と死を「両極ではなかった。」(二六・五)と捉える考え方に對して、各自の意見を文章にまとめて話し合おう。